

# 輪中堤・宅地かさ上げのメリット・デメリット

## 輪中堤

## 宅地かさ上げ

### メリット

- 現況宅地のまま（被災住宅を補修されている場合も含む。）住み続けることができる。
- 宅地かさ上げに比べ早期に事業が完了する。
- 輪中堤（堤防）を整備することで、外水による浸水被害が軽減する。

- かさ上げ高さを超える洪水に対して、現状に比べ家屋への浸水深を低減することができる。
- 宅地をかさ上げすることで、外水・内水による浸水被害が軽減する。

### デメリット

- 輪中堤の高さを超える洪水に対して、現状に比べ家屋への浸水深の低減ができない可能性がある。
- 堤防と集落に高低差が生じ、堤防内に降った降雨等による内水被害の可能性がある。
- ※輪中堤（堤防）整備に伴い、整備に必要な用地の買収により、移転が生じる場合がある。

- かさ上げに伴い、宅地面積が減少する可能性がある。
- 高低差が生じ、階段や坂路が必要となる可能性がある。
- 輪中堤に比べ事業期間が長くなる。
- 一時的（工事期間中）に仮住宅等に移転する必要がある。
- 自己負担が発生する可能性がある。